

令和2年度版 改善計画

学校名：甲府東高等学校

No.	項目	現状と課題	R3年度に目指すべき状態	R2年度に実施する内容 ②R3年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	不測の事態の対応や行事変更等により、意思統一を図るために会議の回数が大幅に増加したとともに会議時間も長くなっている。	来年度通常通りにもどった場合、会議を定時に始め、会議の終了時刻を事前設定し実施する。各回状況を分析検証する。	① 少人数での委員会やワーキンググループを設け、直近の課題に効率よく対応し、会議回数、参加者、時間の削減を図る。またICTを活用し効率化を行う。 ② 会議の設定時期の工夫、回数等について検討し、回数として前年度比20%の削減を図る。	
2	学校行事の負担軽減	前年踏襲の形で実施される学校行事が多いが、不可欠なものがほとんどである。今年度は休校期間が長く、授業時間確保のため大幅に精選する必要がある。	行事が精選され、またその運営方法も効率化を図り、年間通してバランスよく配置される。実施後検証が有効に機能する。	① 授業時間確保のため、予定されている行事の必要性を判断して実施の有無を検討する。 ② 学校行事の工夫・改善、実施時期と回数について、本年度の生鮮状況を踏まえ検討する。 週休日実施の学校行事について平日に実施出来るかを検討する。	
3	校内組織の見直し	平成29年度に、分掌統合を行った。分掌を効率的に運営するために業務の明確化が必要である。	分掌や各種委員会が整理・統合され、業務分担が明確になり、職員の配置編成に適正に行われている。	① 平成29年度より実施継続してきた分掌統合の検証を行い、分掌業務を明確にする。 ② 業務量の平準化を目指して、分掌の人員数、職員の適正配置について検討する。	
4	業務の効率化	校務の煩雑さが改善されず、個人の業務量が増加している。新任職員も多く年度当初、業務内容の引継ぎがスムーズに行われないことがある。	定時退校日には管理職より率先して声かけし全員が定時に退校できる。	① 教材等の共有化をより一層すすめ、教材作成に費やす時間を削減する。 ② 業務内容の引き継ぎ資料を作成し、次年度へのスムーズな引き継ぎを目指す。	
5	部活動の負担軽減	クラス数の減、教員の高齢化・個人的事情等により運動部文化部共に顧問が不足している。	顧問、副顧問で分担して部活動の指導にあたり、負担が特定の教員に集中しない。	① 運動部活動に係る活動方針の周知を図り、各部顧問が、部活動休養日を適切に設定する。また、外部コーチの活用を積極的に図る。 ② 保護者にも周知を図り、参加する大会等の精選を行い、確実に生徒、教員とも部活動休養日が設定できるようにする。	
6	地域人材の活用	学校行事等においてPTAの協力はお願いしているが、多忙化改善のための地域人材の活用は行われていない。	多忙化改善に有効な地域人材の活用がなされる。	① PTA、同窓会と協同連携して、人材発掘を図る。 ② 多忙化改善のための有効な地域人材の活用例を確立する。	
7	（学校独自の項目）	「きずなの日」の趣旨は職員に周知されてきた。しかし、多忙化改善の中でも8時過ぎまで残り残業する職員がいる。	ワーク・ライフ・バランスを意識した取組をさらに推進できる。	① 「きずなの日」の周知をさらに図り、生徒との時間、家族とふれあう時間の確保に努め、勤務の割り振りを行い適正な勤務時間に務める。 ② 教職員の勤務実態を把握し、ワーク・ライフ・バランス推進の具体的なマネジメントを検討する。	